

第2回 北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

会 議 録

1. 会議名 第2回北杜市中部横断自動車道活用検討委員会
2. 開催日時 平成25年10月7日（月） 午後2時～午後3時30分
3. 開催場所 北杜市役所 西会議室
4. 出席者（敬称略）

出席委員：大山 勲、原かつみ、興水順彦、浅川力三、小池明智、三井 茂、白倉秀雄、
坂本伴和、長坂良一、小幡 宏、細川 淳、中村 学、坂本正輝、浅川一彦

欠席委員：雨宮正行、仲澤幸雄、清水勲、向一字、進藤幸夫

事務局：伏見建設部長、清水建設部次長、土屋道路河川課長、道路河川課維持管理担
当 中田、小尾

会議録署名委員 三井 茂、白倉秀雄

5. 議題

① 開会

② 委員長挨拶

③ 議事

(1)北杜市の現況と中部横断自動車道の概要について

(2)検討委員会の進め方について

(3)まちづくりビジョン骨子（案）について

(4)意見の把握について

(5)その他

④ 閉会

6. 公開・非公開の別 公開

7. 傍聴人の数 13名

8. 審議内容（司会進行：事務局）

1 開会

- ・事務局より開会の挨拶

2 委員長挨拶

- ・中部横断道整備にあたり、地域を活性化するためにどうすべきかを早い段階から議論していく。
- ・活性化は、国や行政にやってもらえるものではない。ここに住んでいる住民が進めていく必要がある。
- ・時間はかかるが、委員会では幅広く市民の意見を聴取し、まとめていきたい。
- ・この委員会は市を代表する方々にお集まりいただいております、その方々の公平な大所高所からの意見をいただく委員会。

3 議事

（検討委員会設置要綱第6条2項の規定により大山委員長に議長をお願いする。）

(1) 北杜市の現況と中部横断自動車道の概要について

- ・事務局より、資料に基づき説明。

（委員長）今の説明を整理すると：北杜市の別荘やIターンによる人口増は、中央自動車道ができ、都心から2時間圏の自然環境地という好立地が影響したものであると思われる。高齢化が進んでおり、また、清里を中心に衰退の問題を抱えている。北杜市は都市計画区域に入っていないため、開発に対する規制について工夫が必要。経済状況により、開発が起こる可能性もあり、懸念材料である。しかし資源性は高い地域であり、道路をどう活かし、どう開発をコントロールするかは本地域の重要な課題であろう。

(2) 検討委員会の進め方について

- ・事務局より、資料に基づき説明。

（委員長）続けて「(3)まちづくりビジョン骨子（案）」の説明を求める。

(3) まちづくりビジョン骨子（案）について

- ・事務局より、資料に基づき説明。

（委員長）「まちづくりビジョン」と「まちづくりビジョンを達成するための道路プラン」の2つの内容から成る。「まちづくりビジョン」は、景観や環境で配慮すべきことや、地域活性化に役立つ道路のあり方など、基本的な考え

方を議論する。本委員会が具体的なルートを決定するわけではない。

「道路プラン」では、道路構造など専門知識が必要な技術的なことを本委員会で決めるのは難しい。景観や環境などに対して影響を軽減してほしい内容を検討し、それを実現する技術的な検討は国土交通省にお願いする。上記の理解でよろしいか。

(説明者) その通りである。景観に対してどのような配慮をしてもらいたいかなど、大局的な目で審議して頂きたい。

また、市民の声を聞きながら、市の意見を集約して頂きたい。

(委員長) 色々な意見を整理し、景観や環境に対する影響をなるべく少なくする道路づくりを進めて頂きたい。

また、観光面では軽井沢など他地域より衰退しており、努力すべき状況にある。中部横断道は、国の基幹的な道路であり、通過交通が流れる中、北杜市でこの道路をどう活かすかを考える必要があり、色々なアイデアが欲しい。

(委員) 観光も大事だが、環境問題が第一と思う。環境に配慮したプランが、多くの方のコンセンサスが取れるのではないか。

(説明者) ビジョンづくりは、現時点では、優先順位を付けずに、観光や景観など色々な分野について並行で進めていきたい。

(委員長) 自然環境や景観あつての観光なので、環境・景観のウェイトは高いと思う。他にも様々な分野があるので、今後は、ウェイトの置き方も整理する必要があるかもしれない。

(委員) 笹子トンネルの天井板崩落で、八ヶ岳南麓を含む観光地は壊滅的な被害を被った。高速道路の重要性を痛感している。

(委員) 道路をうまく利用しながら鳥獣被害を抑えられないか。中部横断道にネットやフェンスを設置し、農地に動植物を入れないようにするやり方。今のルート案よりももう少し北へ、耕作地を避けて山側に道路を整備してほしい。

(委員長) 従来動物への配慮は、生物の移動を分断しないことだが、鳥獣害も深刻な問題であり課題となる。

(説明者) 頂いた意見は課題として承る。中部横断道ができることで、守るべきも

の、防ぐべきものの2つの観点で議論、検討していく。

(4) 意見の把握について

(委員長) 市民の皆様から広く意見をいただく。今は早々始めている第一段階の中間的な段階。これについて説明を。

・事務局より、資料に基づき説明。

(委員長) 質疑を求める。

(委員) 意見集約の工程の日程をはっきりして欲しい。

どういふ問題について意見集約を図るべきなのか。この検討会で検討すべき内容が不鮮明。

ルート以外でどのようなことが要望できるのか。観光地として生きて行くには、道路構造はどうあるべきか、色々要望がある。

(説明者) 振興策や景観への配慮など色々な分野について、国に言うべきことの意味の集約を図る。市民の声を聞きながら、本委員会ですりまとめていきたい。

検討委員会の進め方について、来年3月までにビジョン案を提示したい。

それを目標にすると検討委員会は来年の3月までにあと3回必要。11月に第3回委員会を開催し、先立つ意見をまとめたビジョン案を示したい。

今年度策定したビジョンに基づき、来年度から、達成する道路プランの審議を行いたい。

(委員) 周辺住民の意見集約は来年3月以降ということか。

(説明者) 意見集約は最終的なすりまとめであり、ビジョンを作るための考え方を3月までにお話して頂きたい。

3月に示すビジョン案は意見を出してもらいやすくするためのたたき台であり、最終的な提案は来年度もしくは再来年度に市長へ提言する予定。来年度以降も何回か段階を踏みながら意見を頂くことを繰り返していきます。

(委員長) 次回第3回に示すまちづくりビジョン案は、以前に意見を頂いた団体に対して行っているヒアリングの内容を踏まえた、たたき台。今後、検討会の場にて、地域団体等を対象にビジョン案に対する意見を聞く。

この団体は、現在ヒアリングしている団体と違う団体か。

(説明者) 第3回委員会ではビジョンの素案を提示して議論して頂く。その後、市民に提示し意見を頂き、第4回委員会で直接意見をもらう、若しくは別手法で案に対する意見をもらう流れになる。

(委員長) 何回か繰り返すということか。市民の方へ何回か意見を聴取する場を作るということか。

(説明者) 具体的なことは決まっていないが、今、考えられる案として提示した。

(委員) 「『まちづくりビジョン』の検討に先立つ意見の把握」ということで、中間報告というつづりがあるが、すでに聞いているのか。

どのような質問や内容を聞いているのか。

(説明者) 中部横断自動車道の整備及び、その整備を見据えたまちづくりにおける分野、項目、及び分野に属さないものについて意見、お話を聞いている。

(委員長) 第1弾として、以前意見を頂いた団体から聞いているものですね。

(5) その他

・事務局より、資料に基づき参考資料を説明。

(委員) 手続きとして都市計画決定が必要で、それは、県との協議になる。今後相談して決めていくという認識として頂きたい。

(委員長) この委員会は、環境影響評価に意見を反映させたいという意図か。

(説明者) 環境影響評価だけでなく、北杜市の意見をとりまとめ、国、県に遅れることなく伝えたいと考えている。

(委員長) 本委員会は、国・県に北杜市の意見を早い段階で伝えられる非常に重要な委員会である。そのため広く市民の声を聞くことが重要である。

この委員会がきっかけとなり、中部横断道をうまく活かしながら、この地域の長期的、持続的な活性化に結びつけられる議論や、実際の行動が多く市民に広がっていくことを期待している。

4 閉会 事務局

会議終了 午後3時30分